

第7回甲賀市総合計画策定審議会 会議録

- 開催日時** 平成28年3月2日(水) 17時30分から19時30分まで
- 開催場所** 碧水ホール 2階 会議室
- 出席委員** 新川会長、小坂副会長、岡村委員、川端委員、武田委員、谷井委員、谷口委員、中森委員、坊迫委員、松田委員、丸山委員、藪下委員
以上12名
- 事務局** 野尻政策推進課長、出嶋課長補佐、北林係長、清水主査
- 会議次第**
1. 開会
 2. 報告事項
 - (1) 甲賀の國づくりプロジェクト
—甲賀流まち・ひと・しごと総合戦略—の策定について
 3. 協議事項
 - (1) 第2次甲賀市総合計画の策定について
 4. その他
 - (1) 甲賀の國づくり “⊕おしゃべり” カフェの開催について
 5. 閉会
- 会議資料**
- 甲賀の國づくりプロジェクト—甲賀流まち・ひと・しごと総合戦略—の策定について
- 〔資料1. パブリックコメントの結果について
資料2. 平成28年度予算(案)について
第2次甲賀市総合計画の策定について
資料3. 論点データ集について
資料4. 市民意識調査について
資料5. 総合計画(基本構想)の構成について
- 甲賀の國づくり ⊕ “おしゃべり” カフェの開催について
- 資料6. 甲賀の國づくり ⊕ “おしゃべり” カフェの開催について

第7回 甲賀市総合計画審議会 摘録

開催日時：平成28年3月2日（水）17時30分から19時30分まで

開催場所：碧水ホール 2階 会議室

会議内容

1. 開会（あいさつ）

新川会長：総合戦略に一定の目途がついたことから、今回より総合計画の策定に向けた取り組みを進めていく。全国的な人口減少局面において、甲賀市だけが人口増加となることはあり得ない。そのようななかでも、地域の資源や力を活かすアイデアを市民とともに考えることが大切である。

2. 報告事項

（1）甲賀の國づくりプロジェクト

—甲賀流まち・ひと・しごと総合戦略—の策定について

新川会長：事務局より「パブリックコメントの結果について」と「平成28年度予算（案）について」説明を求める。

事務局：資料1、2に基づき事務局より説明。

中森委員：資料2の19ページ「シティセールス推進事業」は非常に大切な取り組みであるので、内容を教えていただきたい。この取り組みのなかで甲南パーキングエリアと土山サービスエリアを活かすことはできないか。土山サービスエリアには年間547万人も来ているが、他市の土産物が多く残念である。

事務局：本市は対外的にまちを売り込む「シティセールス」の取り組みが不足している。これまで信楽焼・忍者・お茶などを幅広く、万遍なく扱ってきたが、地方創生の流れを追い風として全国に発信するため、甲賀流忍者を最大限活かしたい。土山サービスエリアの利活用やアンテナショップについても、シティセールスの一環として検討したい。

谷井委員：21ページの「三世同居（近居）等リフォーム助成事業」は、三世代と一緒に住む場合に支援をしていただけるとのことか。空き家も増加しており、修繕に費用がかかるため、なかなか貸り手が見つからないとの話もよく聞く。

事務局：三世同居（近居）等リフォーム助成事業は、三世代で同居および近居をされる方が、リフォームを行う場合に助成するものである。空き家の活用については、空き家バンクの創設に向け宅建業者と調整中であり、4月1日から本格的に運用する予定である。空き家登録された物件のなかでも、リフォームを伴う空き家の活用については、50万円を上限として2分の1の補助を予定している。仏壇などの家財道具の処分についても、費用の一部を計上できる。

藪下委員：シティセールス推進事業のなかでは、市内の地域資源や地域ブランド

を網羅し、市としてパッケージで売り込んでいただきたい。

川端委員：24ページに「確かな学力の向上事業」とあるが、学力向上も大切だが、ゲームに頼らず外でのびのびと遊んでももらいたい。放課後児童クラブ（学童保育）に行かない子どもたちも学校に集まり、みんなでスポーツができるような楽しい場をつくることも大切だと思う。

新川会長：運動やスポーツの習慣も指標とすることが決定している。質の高い教育、子どもたちの課外活動、クラブ活動をどう支援していくのか、具体的な施策は検討いただきたい。

藪下委員：基本施策2「“ふるさと愛”を醸成して『ひと』を育てる」のなかで、もっと若者同士が交流する機会が大切だと思う。信楽と水口の中学生が一泊二日ぐらいで交流するような取り組みもよいのではないかな。

谷口委員：25ページ「第3子保育料無料化事業」、「第3子学校教育費支援事業」とあるが、資料3の論点データ集の14ページの出生率のグラフを見ると、まずは第2子への支援が必要ではないか。

事務局：第1子のための支援としては、保育環境の充実や、子どもが産まれるきっかけとなる結婚支援がある。第3子のための支援については、経済的な支援が必要である。ご質問の第2子への支援については、第2子を産む・産まないの選択については、夫の帰宅時間と家事への協力に因果関係があるとされている。第1子がいるなかで、夫婦が協力して子育てを行うことで、母親が第2子への希望を持つことができる。そのために行政は、ワークライフバランスを推進し、女性が自分の思い描いた仕事に就けるよう、女性の活躍推進事業で対応していきたい。

岡村委員：30ページの「地場産業振興事業」は、信楽に特化した事業なのか、それとも市域に広げて展開するものなのか。

事務局：「地場産業振興事業」は、第3回信楽まちなか芸術祭に対する支援であるが、信楽焼だけでなく、市内の地場産品と組み合わせて発信したい。

丸山委員：30ページの「海外販路開拓事業」について、市内には外国の方も多く、その知り合いの関係でビジネスルートも構築できるのではないかな。

武田委員：21ページの「地域公共交通網形成計画策定事業」について、甲賀市のコミュニティバスは、路線が複雑すぎることから、一定の整理は必要だと思う。ICカードについては、コミバスや信楽高原鉄道も導入するべきではないか。

事務局：論点データ集の73ページにコミュニティバスの利用客数を掲載しているが、特に中山間地域では利用者数が減っている。いかに効率よくバスを運行させるのか十分に検討したい。

3. 協議事項

(1) 第2次甲賀市総合計画の策定について

新川会長：事務局より「第2次甲賀市総合計画の策定について」説明を求める。

事務局：資料3、4、5に基づき事務局より説明。

- 新川会長：今回初めて見た興味深いデータもある。まずは基礎的な理解を深めていただけるよう、ご自由に発言願う。
- 中森委員：市も地産地消を推進しているが、衣食住の「食」のサービスが弱いのではないか。地域の特産品を活かして、「食」を核として交流人口を拡大し、自治体間競争に勝ち抜いてほしい。旧5町のなかでは「食」で核になるところはない。
- 新川会長：各自治体で人を取り合う時代になった。それぞれが「甘い水」を出し合っても、共倒れするだけであり、過当競争に巻き込まれてはいけない。また、移住だけでなく、今いる市民が、本市に住み続けたいと思っていただけることが重要である。
- 小坂副会長：論点データ集の「都市機能の再構築」の項目で、甲賀地区は図書館が1 km 圏外だという説明だが、移動図書館はあるのか。
- 事務局：移動図書館も運営している。
- 小坂副会長：移動図書館を充実していけば、その機能は満たされると思う。移動図書館が沙龙的な活動をしながら、高齢者に「今度はどんな本が読みたいのか」を聞いていけば、図書館の課題は解決できる。市民意識調査の結果を見ると、市民が幸福感を判断する際に重視するのは、金と家族と健康である。これらは、いわゆる「自己完結」のものが強く寂しく感じる。自治振興会への参加が少ないなどの課題もあるが、仲間づくりで横のつながりが強くなることで、幸福度の上昇につながる。
- 武田委員：論点データ集の49ページ目「求人・求職バランスシート」の年月を明示いただきたい。また、月別ではサンプル数が少なくなるので、年間を通じた合計で比較したほうがよい。本地域は製造関係の事業所が多く、他の地域と比べて働くところが多い。非常に恵まれているのだが、これらが市民に伝わっていないのが課題である。また、最近の傾向として、交替制の仕事を若者が敬遠し、外国人の労働者や技能実習生も交替制の勤務を敬遠される傾向にある。企業に優秀な人材が集まらないという現状であることから、地元企業の良さをアピールし、地元で働く人が増えることで、人口増加につなげていく必要がある。
- 新川会長：雇用は幸福度にも大きく影響を与える。甲賀市がどのような地域で、どのような素晴らしいまちであるかを、まずは住んでいる人たちに実感していただかなければならない。
- 藪下委員：基本構想は12年先の話であり、将来都市像、都市構造が大きな枠組みの上位となり、その姿によって施策が変わることは理解できた。本市は地域ごとに特徴があり、それらをうまく連携させるためには自治振興会が重要な役割を担うと思う。都市構造の転換は避けられず、コンパクトシティの考え方に基づいた、メリハリのある特徴のある市を目指すべきである。
- 谷口委員：論点データ集のグラフに全国平均や滋賀県平均が書かれているが、他市との比較ができるよう資料をまとめていただきたい。

- 新川会長：県内都市比較、類似都市比較のようなものを入れていただきたい。
- 小坂副会長：データ集の2枚目「甲賀市を訪れる観光客のうち、宿泊客は全体の5%にも満たない」とあるが、現在の宿泊客はどのような観光をしているのか。
- 事務局：市内での宿泊は僅かであり、新名神高速道路が開通したことによる通過観光が多いのが現状である。滞在型の観光ルートが提案できておらず、その魅力も外に発信できていない。総合戦略では、観光入込客数を指標としているが、滞在時間、交流時間、宿泊のキャパシティも含めた取り組みも目標としている。
- 小坂副会長：市全体が「屋根のないまるごと博物館」となり、宿泊滞在していただけるようになってほしい。
- 谷井委員：甲賀市が「安全・安心なまち」として認定されたと聞いた。総合計画との関連はどうか。
- 事務局：セーフ・コミュニティについては、WHOの認証を日本で13番目、県内で初めて取得した。あらゆる外傷は予防できるとの観点から、市民とともに取り組むものである。今後の取り組みのポイントは、市民と事業者、行政の協働にあり、次期総合計画でも重要な施策となる。
- 中森委員：信楽伝統産業会館、甲賀流忍者屋敷、くすり学習館の3つの施設を連携させて、博物館構想を進めるなど、よいアイデアの出し方はたくさんあるのではないかと。
- 事務局：都市構造の転換が非常に重要になってくる。全国的な事例を踏まえて新川先生のご意見を伺いたい。
- 新川会長：集約型都市構造は、人口減少、縮小社会が進んでいくなかで、都市の機能を集約し、にぎわいや活力を維持するための構造である。この構造が、人と人との交流や文化、経済の力を発揮させる。482km²の広域なまちがコンパクトシティを目指すのは容易ではない。甲賀市に合った集約の仕方を考えなければならない。集約の仕方はクラスター型が望ましい。全てを水口に集めるのではなく、例えば旧町単位で施設や居住のコンパクト化を図り、それらをネットワークでつなぐことで、お互いがお互いを補うのがよい。

4. その他

(1) 甲賀の國づくり“大おしゃべり”カフェの開催について

新川会長：「甲賀の國づくり“大おしゃべり”カフェ」について事務局の説明を求める。

事務局：資料6に基づき説明。

新川会長：総合計画策定を進めていくためのアイデアを出し合っていたきたい。

5. 閉会（あいさつ）

小坂副会長：甲賀市も日本遺産の認定に向けて動いていると聞いた。琵琶湖の日本遺

産認定も根気強い取り組みから認定に至った。人との関わりは一回や二回ではわからないが、様々な人を巻き込むなかで、それぞれの得意分野を活かした取り組みとなる。多くの人が関わり素晴らしい総合計画を策定したい。

事務局：本日の資料3、4はボリュームもあるため、それぞれ内容をご確認いただき、ご意見、ご質問は事務局までお願いしたい。

以上